



さいくうあと通信



発行：明和町 斎宮跡・文化観光課 (三重県多気郡明和町大字斎宮2811)
電話：0596-63-5315 E-mail: saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp



斎宮のハナショウブ群落スケッチフェスタ 作品展を開催しました



国指定天然記念物「斎宮のハナショウブ群落」をテーマにしたスケッチフェスタを開催しました。「どんどこ花」の愛称で親しまれてきた町の花であるノハナショウブを、子どもたちの自由な表現でいきいきとスケッチしてもらうイベントです。ノハナショウブの開花に合わせて6月より募集を始めたところ、町内の園児・児童・生徒の皆さんから、計490点もの素晴らしい作品が寄せられました。たくさんの温かいご応募をいただき、誠にありがとうございました。

皆さまの力作をより多くの方にご覧いただくため、ご応募いただいた全作品を展示する作品展を下記のとおり開催いたしました。会期中は多くの方にご来場いただき、子どもたちの豊かな感性あふれる作品を楽しんでいただきました。ご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

なお、今回ご応募いただいた数々の素晴らしい作品は、後日、明和町の公式Instagramでも随時ご紹介していく予定です。会場にお越しになれなかった方も、ぜひ子どもたちの力作をお楽しみください。

<スケッチフェスタ作品展 開催概要>

- ・展示期間：令和8年7月20日（月・祝）～8月30日（日）
- ・展示場所：いつきのみや地域交流センター
- ・応募数：490点
- ・展示作品：明和中学校 美術部、斎宮小学校 6年生、明星小学校 6年生、明和北小学校 1年生、2年生、5年生、第2明和ゆたか園 年長、個人応募

<展示状況>



国指定天然記念物

斎宮のハナショウブ群落

スケッチフェスタ 2026



～紫の雲がたなびく感動を描こう～



明和町の花「どんど花」の語源

明和町では、町の花として親しまれている「ノハナショウブ」のことを「どんど花」と呼び親しまれています。このノハナショウブの自生地である「斎宮のハナショウブ群落」は、昭和11年に国の天然記念物に指定されており、町では群落の維持に努めています。

この明和町固有の呼び方である「どんど花」とは、いったいどのような意味から来ているのでしょうか。今回はその言葉の由来を紐解いてみましょう。

「どんど」は水に関する言葉？

「どんど花」の語源について、皇學館大学の齋藤平教授は、明和町の方言を紹介する番組の中で、「用水路から水田に水を取り入れる取り入れ口に由来し、どんどんと水が流れる様子を模している」と指摘されています。また、町内で行った文化遺産の聞き取り調査でも、金剛坂集落の田んぼに「どんど」と呼ばれる場所があることが分かっています。そこは、上流から農業用水が流れてきて、水が落ちる場所でした。こうした調査からも「どんど」という言葉は、水にまつわる言葉である可能性が高そうです。

では、この「どんど」という言葉は、全国的にどのような広がりを見せているのでしょうか。『日本国語大辞典』によると、「どんど」とは「川や用水路の堰^{せき}から水が落ちている所」や「川水が勢いよく落ちる所。水門や堰」を指すとされており、水の音が由来になった言葉だと説明されています。実際、京都府、富山県砺波市、岐阜県、愛知県名古屋市、滋賀県甲賀郡等の事例が辞典で紹介されています。その中から、関連の深い事例をいくつか調べてみました。

①長野県塩尻市・平出集落の事例

集落の上流にある湧き水地点から流れる「渋川」の途中にある、水汲み場兼洗い場のことを「どんど」（他に「ドドンビキ」「ドドンブキ」とも）と呼び、集落内で32か所も確認されています。

②石川県の珍しい「閑」姓の事例

石川県には「閑（どんど）」さんと読む珍しい苗字^{みょうじ}があります。（出典：『方言漢字事典』）

漢字の成り立ちをみると「門構えに水」となっており、やはり用水に関わる場所や仕事が由来であることを想起させます。

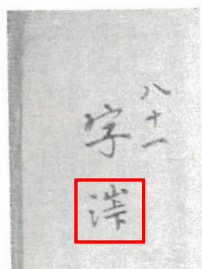


塩尻市・平出のどんど

③福井県福井市の地域固有文字の事例

福井市（旧・丹生郡西安居村^{にゅうぐん にしあご}）の小学^{こが}名に、左の写真の赤で囲った文字のように表記する地域固有の文字があり、「どんど」と読まれています。『西安居村誌』や明治期の地籍図で確認されているそうです。この場所は「秋には稲穂が実る土地の周囲には山の上から下へと用水路の水が流れ落ちる場所があった。」とされています。

さらに三重県内でも伊賀市阿保^{あお}の「百々^{どど}」、多気町朝柄の「どんど橋」、松阪市の「百々川」などの事例が見られます。



明治九年越前国丹生郡本堂村地籍絵図

出典：『方言漢字事典』

明和町は豊かな自然に恵まれ、昔から稲作などの農業が盛んな土地柄です。日々の農作業や水利のなかで、住民の生活にとっても身近だった水辺の環境。そこに可憐に咲くノハナショウブを、いつのころからか地域の人々は親しみを込めて「どんど花」と呼ぶようになったのでしょう。明和町の大切な宝物である「どんど花」の固有の呼び方とともに、これからも美しい群落をしっかりと未来へ引き継いでいきたいと思います。